

1 内政

（1）アルス一元大統領に対する不逮捕特権剥奪請求却下

9日、アルバロ・アルスー・グアテマラ市長（元大統領）に対する公金横領及び不正選挙資金調達等の容疑での検察庁及びグアテマラ無処罰問題対策国際委員会（C I C I G）による不逮捕特権剥奪請求に関して、第3上訴裁判所は、右請求を却下した。検察庁およびC I C I Gは、アルスー市長は自身の政党である統一会派党（UNIONISTA）等が広報グッズを2013年から2015年にかけてグアテマラ市郊外のパボン刑務所内の受刑者協同組合に注文した際、同組合に白紙の請求書を出させ、同市都市計画援助信託基金から約43万ケツアル（約660万円）を同組合に支出させた疑いがあるなどとして不逮捕特権剥奪請求を行っていた。同裁判所は、右事件に関して、同市長が関与した証拠がないとし、また別の事件に関しても嫌疑なしとして、請求を却下した。

（2）ロダス人権擁護官罷免の動き

8日、ロダス人権擁護官は、憲法広場で行われた福祉施設「聖母昇天安全の家」の火災の1周年追悼行事に参加し、遺族に挨拶した。その場でたまたま行われていた国際婦人デーのデモに、フェミニスト団体が聖週間の行列をもじった女性器をかたどったのぼりやみこしとともに参加し、同擁護官と偶然言葉を交わした。与党国民集中戦線（FCN）のエルナンデス国会議員団長ら一部国会議員が「ロダス人権擁護官がカトリックの重要な行事である聖週間の行列を茶化したフェミニスト団体の行事に参加した」として激しく非難し、国会で同擁護官の召喚を決議し、さらに罷免のための多数派工作を始めた。しかし、19日、憲法裁判所は、召喚の理由が不明確であるとし召喚を無効とする決定を出した。

ロダス人権擁護官は、昨年8月のモラレス大統領のベラスケスC I C I G委員長追放決定に対し、憲法裁判所に異議申し立てを提出しこれを阻止した。またその後も反汚職の立場での発言が多い。右経緯から、FCN等の議員は同擁護官の罷免の機会をうかがっていた。

2 外交

(1) モラレス大統領とネタニヤフ・イスラエル首相の首脳会談

4日、モラレス大統領は、ワシントンのブレア・ハウスでネタニヤフ・イスラエル首相と会談した。同日、モラレス大統領は、ワシントンのロビイスト団体米イスラエル公共問題委員会での講演会で、在イスラエル・グアテマラ大使館を5月にエルサレムへ移転する旨を発表した。モラレス大統領は、「米国が在イスラエル米大使館を移動した2日後に、グアテマラは、今後永年にわたり当国大使館をエルサレムに置くこととする。共和国大統領、そして外交責任者として、憲法に則り判断した」と述べた。ネタニヤフ首相は、大使館のエルサレムの移動につきモラレス大統領に直接感謝を伝え、70年以上にわたる両国の友好関係が更に強化されると述べた。

(2) モラレス大統領主催外交団との懇談会開催

17日、モラレス大統領はエスクイントラ県パリン郊外にある大統領別荘「フィンカ・サント・トマス」（ウビコ大統領時代に建設）において日本を含む外交団との懇談会を行った。同会議にはホベル外相ら各大臣が参加した。懇談会においてモラレス大統領は同政権発足後2年間の活動内容を報告するとともに各国との協力関係の強化に努めた。

3 経済

(1) 2018年1月の当国訪問客数

グアテマラ観光庁は、本年1月のグアテマラ訪問客が前年同月比21.4%増となる215,543名に上った旨を発表した。増加率が顕著であった国はカナダ、米国およびメキシコであった。チャホン観光庁長官は、「観光客の増加は外国におけるグアテマラ観光促進活動の成果である。」と述べた。

(2) 外国からの送金額

グアテマラ中銀は2018年1月および2月の外国からの送金額が前年比5.2%増となる12億6千万米ドルに上った旨を発表した。中銀によると本年の外国からの送金額が2017年の総額（81億米ドル）の9~12%増となる見込みである。

(3) グアテマラ産メロンの輸出

国連の統計によると2016年のグアテマラによるメロンの輸出量は4億5,530万キロに上り、スペインを上回り世界一であった。

(4) 国税庁長官の任命

23日、解任されたソロルサノ前国税庁長官の後任としてアベル・クルス新長官が任命された。エストラーダ財務大臣は新長官の職務評価は法律に基づいて行われ、本年の徴税額が目標に達しなかった場合は解任される予定であると述べた。

4 治安・社会

(1) 国軍参謀総長の解任

6日、国防省はエリック・カノ国軍参謀総長（実質ナンバー2）の退任を発表した。同参謀総長は、昨年8月に昇進したばかりで、定年まで3年を残しての引退となった。カノ氏は、モラレス大統領の婚外の息子の母親の妹の夫で、大統領の友人であり大統領の信頼の厚い人物であった。後任には、フリオ・パス第一歩兵旅団長（准将）が任命された。

(2) 国防省幹部の大規模異動

7日、国防省は、187人の幹部の異動を発表した。カノ参謀総長の退任に伴うもので、特に北部地域での異動が多く、ペテン県のセルバ（ジャングル）作戦特別旅団長（麻薬組織が中継地として使用している地域を担当）が異動となった点が注目される。また異動となった准将、大佐の多くはカノ氏と同じ国軍士官学校第108期である（パス新参謀総長は第106期）。国防省広報は今回の異動を定期異動としているが、国軍筋は「エル・ペリオディコ」紙に対して、今回の異動は、麻薬対策をより効果的に行うための組織内を浄化する動きと関係がある旨述べた。

(3) サンマルコス県におけるケシ畑の伐採

8日、サンマルコス県イシュチグアン市および同県タフムルコ市の関係者はメンデス農牧食糧大臣と違法なケシ栽培の代替計画の再開について話し合いを行った。メンデス大臣は5,300万ケツアルを投じ灌漑システム、貯水タンク等を設置する旨述べた。

◇主要経済指標◇	2018年			2016年	2015年
	3月	2月	1月		
インフレ率（前年同月比）	4.14%	4.15%	4.71%	4.23%	3.07%
貿易収支（百万ドル）	未発表	△493.2	△671.9	△6,532.0	△6,913.1
輸出（百万ドル）	未発表	931.6	894.1	10,465.3	10,726.2
輸入（百万ドル）	未発表	1424.8	1,566.0	16,997.3	17,639.3
外貨準備高（百万ドル）	11,740.8	11,475.2	11,345.9	9,160.4	7,751.2
外国からの送金（百万ドル）	745.5	630.1	634.5	7,160.0	6,285.0
為替レート（対ドル月平均）	7.39	7.36	7.34	7.62	7.65

（出典：中銀，国立統計院）

注）2015年および2016年の為替レートは年平均

（了）